2018年の記憶　～宮古島市重大ニュース～（前半）

①国立大学法人上越教育大学との連携協力に関する協定締結（2月20日）

宮古島市教育委員会は、国立大学法人上越教育大学との連携協力に関する協定を2月20日に締結した。協定の締結により本市の教育研究活動、人材の育成、地域社会の発展などの活性化が期待できる。

②「エコアイランド宮古島2.0」及び標語「千年先の、未来へ。」公表（3月30日）

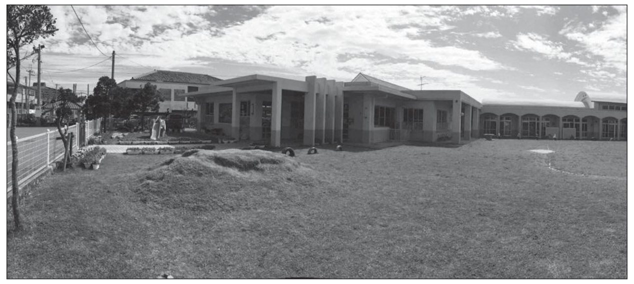
2008年に発表した「エコアイランド宮古島宣言」から10年を迎え、「エコアイランド宮古島宣言2.0」としてバージョンアップし、市民と目標を共有するため標語「千年先の、未来へ。」を決定した。

③こども医療費の窓口無料化開始（4月1日）

昨年4月より、子どもだちの病気の早期発見・早期治療のために「こども医療費の窓口無料化」が開始された。医療機関を受診する際、窓口での医療費支払いが軽減される。

④上野・下地地区に認定こども園開設（4月1日）

昨年4月、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ幼保連携型認定こども園が、本市の公立としては初めて上野地区(上野こども園)と下地地区(下地こども園)に開設された。



◀上野こども園

◀下地こども園

⑤伊良部漁協(海業支援施設)供用開始（4月1日）

伊良部地区において、地域水産業の強化及び振興を図るため、平成28年度より整備が行われてきた海業支援施設が4月より供用開始された。本施設の供用開始により、佐良浜漁港に水揚げされる新鮮な地域水産物を市民・観光客等へ普及するとともに、低利用・未利用資源の加工品への利活用や、民泊など漁業と観光が連携した都市漁村交流を促進するなど、今後も更なる魅力向上が期待される。

⑥東添道水源開発工事における建屋建築工事に着手（7月6日）

近年増加する需要水量に対応するため、今後の飲料水等の安定確保を目的として、7月に東添道水源地の建屋建築工事が着手された。総事業費は約3億円となっており、同水源は1日当たり3,000㎥の計画取水で、機械・電気工事を含め、30年度内の供用開始を予定している。

⑦宮古島こども議会が12年ぶりに開催（8月14日）

宮古青年会議所が主催する「宮古島こども議会」が8月に開催された。
宮古島こども議会は12年ぶりの開催となり、市内の中学校10校から21人が議員として出席し、公共施設の運営状況や学習環境整備等について市当局へ一般質問を行った。

2018 年の記憶 ～宮古島市重大ニュース～（後半）

⑧自家用有償旅客運送制度の実施（９月１日）

大型外国クルーズ船の来港時において、空港や市街地においてタクシー等の公共交通が利用困難となる「交通空白状況」を解消するため、９月より自家用有償旅客運送制度を活用した自家用自動車による旅客運送を開始した。

⑨下地・上野地区に光ブロードバンドサービス提供開始（９月 19 日）

ICT の利便性を全県的に等しく享受できる環境づくりを目的として沖縄県による超高速ブロードバンド環境整備促進事業にて域内の光ブロードバンド環境整備を実施し、９月より先行して下地・上野地区にサービスの提供が開始された。

⑩第 13 回宮古島市民総合文化祭 JTA ドーム宮古島で初の合同開催（10 月 19 日～ 21 日）

第 13 回宮古島市民総合文化祭が JTA ドーム宮古島をメイン会場に、「一般の部」と「児童・生徒の部」の合同開催に加え、宮古地区中学校文化祭と同時開催された。
また、創作活動の場を一般開放するオープンアトリエも実施され、会場には約 7,000 人の市民が来場した。

⑪長栄大学日本教育センター設置（11 月 19 日）

本市と文化交流・教育学術交流等について覚書を取り交わした台湾の長栄大学により、11 月 19 日に城辺庁舎に長栄大学日本教育センターが設置された。今後、同センターを拠点として、交流促進および分校設置の取り組みを促進することとしている。

◀長栄大学理事長の楊四海（ようしかい）さん（左）と下地市長（日本教育センター開所式）

⑫危機的な状況にある言語・方言サミット宮古島大会開催（11 月 24 日）

全国の消滅の危機にある言語・方言の状況改善につなげることを目的として、文化庁主催の「危機的な状況にある言語・方言サミット」が 11 月 24 日にマティダ市民劇場で開催され、翌 25 日には、関連イベントとして方言大会歴代チャンピオン大会も開催された。
同サミットは国内の言語、方言のうち消滅の危機にあるものについて、最新の調査研究結果や各地域の取り組みや、危機言語・方言の聞き比べなどが催された。

⑬「来訪神：仮面・仮装の神々」ユネスコ無形文化遺産へ登録（11 月 29 日）

宮古島市の国指定重要無形民俗文化財である「宮古島のパーントゥ (島尻部落：パーントゥプナハ、野原部落：サティパロウ)」が「来訪神：仮面・仮装の神々」行事 10 件の中の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録された。

◀島尻部落のパーントゥプナハ

⑭平成 30 年の入域観光客数が 100 万人を突破（11 月 30 日）

本土直行便数の増加や、クルーズ船の寄港数増加により、入域観光客数は大幅に増え、11 月末時点で前年を上回り、過去最高の 100 万人超となった。(1,053,800 人)

⑮宮古島市リサイクルセンター完成（12 月 14 日）

平成 28 年 10 月に建設工事に着工した「宮古島市リサイクルセンター (工場棟)」が完成し、12 月に供用開始された。本施設はリデュース、リユース、リサイクルの 3R を進め、循環型社会を構築するため廃棄物処理システムづくりを推進していくことにより、資源循環と最終処分場の減量化に寄与する施設となる。